

プロとしての介護業務について——その6
施設運営の糧の介護報酬について

プロとしての介護業務について、その1ではプロとしての介護とアマとしての介護の違いを、その2では社会から期待される使命としての介護業務を、その3ではスマイル命ということについて、その4では仕事へのやりがいを持つことの大切さ、その5では第三者にも誤解されない言葉や行動への配慮も必要です、とのお話を致しました。

今回は、施設運営の糧の介護報酬についてのお話です。私たちは社会のインフラを支える重要な介護業務に従事しておりますが、それに対する対価として介護報酬という形で施設の運営資金を頂いております。

その介護報酬は国民の支払う介護保険料という公助制度に依っています。保険料だけでは足りないので半分は税金が投入されています。消費税分も入っています。

安心な点は民間事業と違って不渡り手形のような不払いリスクはありません。ルールを守っている限り働いた分はちゃんと頂けます。介護保険制度に基づく介護報酬は3年ごとに見直されて調整されますので、その度に短期的運営方針は少しずつ方向修正されて行くでしょう。その都度、職員の皆様も当たりまえとと思ってやってきたことも原点に戻って見直さなければならぬことも出てくるでしょう。

そこで大事になるのが、一羊館の基本理念です。私たちの歩むべき方向を示す羅針盤です。

「理念」は短期的にも中期的にも一羊館が続く限り変わることは有りません。よほどのことがない限り長期的にも変わる必要はありません。それが各会社ごとに定められているそれぞれの理念です。我が家の家訓と同じです。政治で言えばイデオロギーのようなものです。他人に言われて変えるべきものでもありません。

ですので、自信を持って、一羊館の理念に基づいて、行動して行けば、いたずらに迷うことはありません。迷う必要もありません。その理念のもとに、介護報酬制度には見直される都度対応して行けば良いことです。

職員一人一人色々悩みはそれぞれあるでしょうが、職場に出てきたらなるべく切り替えて、笑顔で、心の余裕を持って、利用者の方々に接すれば、細かい計画通りにいなくても、良い介護になることは間違いありません。

老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。